



全国の高校生が 芸術文化で輝く7日間!

第47回全国高等学校総合文化祭

2023かごしま総文

2023 KAGOSHIMA SOUBUN

今年の夏、芸術・文化の分野で日々頑張っている全国の高校生が鹿児島に集結します。本市で開催される部門や見どころを紹介します。

【鹿児島県実行委員会事務局 ☎286-5575 FAX286-5570、学校教育課 ☎227-1941 FAX227-3016】



ホームページ

本市開催部門・会場

部門	会場	29	30	31	1	2	3	4
開会行事	西原商会アリーナ	●						
総合開会式	西原商会アリーナ	●						
パレード	かごしま文化ゾーン		●					
演劇	川商ホール		●					
合唱	宝山ホール			●				
吹奏楽	宝山ホール			●				
器楽・管弦楽	川商ホール			●				
マーチングバンド・バトントワリング	西原商会アリーナ			●				
美術・工芸	市立美術館・黎明館	●	●	●	●	●	●	●
写真	かごしま県民交流センター	●	●	●	●	●	●	●
放送	かごしま県民交流センター							
弁論	サンエールかごしま			●				
小倉百人一首かるた	西原商会アリーナ			●				
新聞	志学館大学			●				
自然科学	鹿児島大学、谷山サザンホール	●	●	●	●			
特別支援学校	センターラス天文館	●	●	●	●			
茶道	かごしま県民交流センター							



第46回大会(東京)の様子

全国高等学校総合文化祭

鹿児島では初開催!

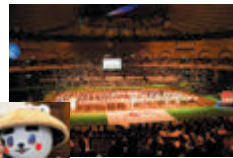
全国高等学校総合文化祭(通称:総文祭)は、昭和52年から各都道府県が持ち回りで開催している、高校生による芸術文化活動の祭典です。文化部のインターハイと例えられることもあります。「かごしま総文」は、全都道府県開催の一巡目を締めくくる記念すべき大会です。参加校は約3千校、高校生約2万人が全国から集まり、22の部門で発表などを行います。

生徒実行委員会委員長 三森さんに
大会の見どころなどを
聞きました



甲南高校3年 三森 芽依 さん

生徒実行委員会は県内の高校生約100人で構成されていて、これまでカウントダウンイベントの開催やSNSを使った広報、プレス大会の実施など、さまざまな取り組みを行ってきました。現在は、大会の開催に向けた最終調整などを行っています。総文祭は、全国からトップレベルの文化部の高校生たちが集まる、鹿児島ではめったにない大会です。たくさん部門があるので、あなたのお気に入りの芸術作品や文化活動に巡り合えるかもしれません。高校生の情熱が詰まった作品や演出などに会いに、ぜひ会場にお越しください! ※事前申し込みが必要な部門もあります。詳しくは大会HPへ



パレード

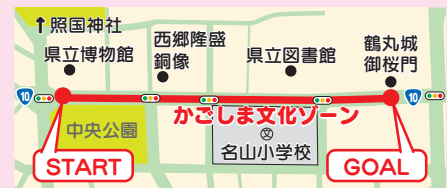
全国や海外から集まった約2千人の高校生が、マーチングバンドの演奏に合わせてパトーンやフラッグの演技を披露し、大会の幕開けを彩ります。当日は交通規制もありますので、ご協力をお願いします。

日時

7月29日(土) 17時~18時30分



ホームページ



美術・工芸部門で作品を出展
鹿児島玉龍高校美術部
内野さんに聞きました



鹿児島玉龍高校3年 内野 花香 さん

この作品は、モデルの友人がたまにたまスコップを持って取ったポーズにインスピレーションを受け、3カ月ほどかけて制作しました。周囲に小さく写る人物や地面に見える草、たくさん足のなど、細かい所までこだわって表現しているので、じっくり見てもらえるとうれしいです。



▲ 出展作品
《DDDDigging》

全国の高校生がこの大会を目標に頑張ってきました。その集大成を、ぜひご覧ください!



市長からのメッセージ

災害の記憶や教訓をいのちを守る行動に生かして



梅雨入りの時期になりました。本市では、毎年この時期、これから迎える大雨や台風のシーズンを前に、災害発生を想定した訓練や市内全域の防災点検を行っています。

平成5年の8・6豪雨災害から30年にあたる今年には、非常に激しい雨が夕方から集中した当時の状況を踏まえながら、同規模の災害を想定した対策本部設置の訓練を閉庁時間に実施しました。また、防災点検においては、私も豪雨災害の関連箇所に出向いて、整備状況などの点検や確認を行いました。

近年、全国各地で豪雨などによる災害が頻発しており、また先月は各地で地震も相次ぎました。災害はいつどこで発生してもおかしくありません。今回の訓練や点検を通じて、災害の記憶や教訓を風化させることなく後世に伝え、いのちを守るための備えに役立てていくことの重要性を改めて痛感しています。

今回、皆さんにお配りした「防災リーフレット」では、災害時にとるべき避難行動などとともに、8・6豪雨災害の状況も掲載しています。災害にまつわる経験をご家族やお近くの方と共有しながら、ご自身や大切な人のいのちを守るため、日頃の備えに生かしていただきたいと思います。

鹿児島市長 下鶴 隆央